

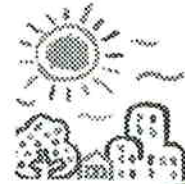
市政研究所だより NO. 15

豊中市政研究所 TIMR (The Toyonaka Institute for Municipal Research)

〒561-0802 大阪府豊中市曾根東町3-7-1

TEL:06 (6862) 2290 FAX:06 (6862) 2292

ホームページ: <http://www.tctt.zaq.ne.jp/timr> E-mail: timr@tctt.zaq.ne.jp



MENU

- 市政研究セミナー開催のご案内 … 1
- 研究員レポート … 2~4
- ツールボックス・平成 12 年度
事業報告と収支決算 … 5
- 事務局から … 6

◆市政研究セミナー開催のご案内

研究成果をもとに、意見交換をします。ぜひご参加を!

市政研究所では、昨年度から自主研究で取り組んだテーマについて、担当した研究員が報告を行い、参加者で意見交換する「市政研究セミナー」を年 1 回開催しています。2 年目の今年は次の 3 テーマで開きます。

調査研究の過程でアドバイスを受けた研究者の方や現場での活動を実践されている方の参加もお願いする予定です。テーマに関係する活動を行っている方はもちろん、興味をお持ちの方は是非参加してください。また、このセミナーは豊中市の職員研修の一環にもなっており、職員研修所との共催です。

テ	マ	日	時	会	場
地域の「小売店舗」と「商業組織」、そして「まちの中心」に期待される機能	～豊中都市心ゾーン地域をケーススタディとした生活者インタビューから～	11月7日(水)	午後7時～	中央公民館	
IT産業振興“とよなかモデル”	- 税収の安定確保に向けて -	11月8日(木)	午後6時30分～	中央公民館	
廃棄物に関する意識・行動調査(1)	- ライフスタイルの視点から -	11月13日(火)	午後6時30分～	岡町図書館	

※会場設定や資料準備の都合上、参加希望の方は事前に市政研究所までお申し込み下さい。

☆報告者からのご案内☆

(藤家) 地域小売商業者が地域の生活者に支持されている点、期待されている点について、そして豊中市の中心市街地である「豊中都市心ゾーン地域」に求められる機能について、昨年度実施した生活者へのグループ・インタビューの結果を中心に調査研究を行った報告をします。地域の生活者への生活支援機能の何を小売商業が担うことができるのか? 又は何が期待されているのか? まちの中心に備えておくべき機能は何か? グループ・インタビューでは明日の行動のヒントになるものから、じっくりと腰を据えて取り組むことまで、様々な刺激的な意見が聞かれました。これらの成果をもとに、会場で意見交換できればと思います。市民の皆様、事業者の方々のご参加をお待ちしています。

(太原) 今年のセミナーでは、歳入確保策の一環として産業振興策をとりあげます。なぜ、豊中で IT 産業振興なのか、ふさわしい IT 関連産業とは具体的にどんなものがあるのかを一緒に考えていきたいと思ひます。当日は、調査研究で研究委員としてご指導いただいた大阪市立大学経済研究所の小長谷一之助教授にも出席いただき、IT をめぐる新産業の最新の動向なども報告いただく予定です。

(村上) 昨年度実施したアンケートでは、地域や近所との関わりとごみに関する意識・行動について調査しました。そこから見えたのは、ドライな近隣関係とごみ・環境問題に対する高い関心です。「周囲の人がやっているから」ではなく、「環境のために大切だから」と、個人として自覚を持ち、行動する回答者の姿があります。

セミナーでは調査結果の報告とともに、近隣関係やごみ・環境問題について参加者から忌憚のない意見や感想を求め、アンケート調査からは窺い知ることのできなかつた、住民の具体的な意識のありかたを探りたいと考えています。また、参加者との関係を継続しながら今年度の調査研究に結び付けていくつもりです。

千里ニュータウン共同研究の経過について

【報告会を開催】 7月22日(日)、千里公民館で「千里ニュータウンの暮らしの変化とまちづくりに関する調査」の報告会を開催しました。この調査は、昨年度から2年かけて千里ニュータウンの今後のまちづくりのあり方を市と共同で研究するために実施したアンケート調査及びインタビュー調査です。今年の2月には中間報告と意見交換の場をワークショップ的な運営で開催し、そこでの意見も調査結果の分析に反映するよう取り組んできました。報告会は80人近くの参加者があり、結果報告、助言者のコメント、質疑応答など約2時間のプログラムとなりました。結果報告は、市の企画調整室吉田主査が行いました。まず、千里ニュータウンが抱えるさまざまな問題を克服し、再生に向かうためには、市民生活の変化や価値観の多様化、地域コミュニティの現状など、「生活者の視点」の把握が必要であるといった調査の目的や調査項目の考え方をはじめ、アンケート回収率(59.2%)や集計結果の地区別・階層別内訳などを紹介しました。報告の内容は、「日用品の購入場所」「利用医院の場所」「ニュータウン内に大切に育てていきたいもの」「家の近くに今後増えたらいいもの」などを抜粋し、傾向や特徴について、オーバーヘッドプロジェクターを使って説明しました。また、今回の調査で協力いただいた木多、伊東研究委員からは「近隣センター、バリアフリー、住宅の更新などの問題を相互に関係付けていけば、社会的環境を豊かにすることになる」「生活者の

視点というのは学術的にも調査手法として確立していないため、今回の調査では仮説を立てずにアンケート・ヒアリングなどをとおして対象に迫ることから、生活者の視点を把握しようという特徴を持っていた」といったコメントがありました。質疑応答では、参加者から校区での福祉活動や島熊山の自然環境保全についての危惧、桃山台駅のエスカレーター、近隣センターでの医療施設などの問題、また住民との協働が市の政策形成にどうつながるか、千里地域での市の文化行事などについて意見が次々とだされ、企画調整室と都市計画課の職員が現状等を説明しました。最後に、企画調整室の奥田主幹が「今回の調査を踏まえ具体的な再生プランづくりに取り組みます」と述べ、報告会のまとめとしました。

【今年度の経過と今後の予定】 13年度では、「千里ニュータウンの新たな評価と展望」というテーマで、昨年度の意識調査を踏まえながら、千里ニュータウンの再生に向けた主要な課題を整理し、再生のための実効性のある施策・手法をあきらかにしていきます。8月下旬には、再生プラン策定調査にあたって市浦都市開発建築コンサルタンツの協力を得る

ことが決まり、現在、既往調査の整理、実態状況の補足、主要な課題の整理などに取り組んでいるところです。10月中旬に専門家を交えた第1回研究会を開く予定です。進捗状況については、適宜、市政研究所 Web ページ上でお知らせします。

(太原)



報告会の様子 (7月22日千里公民館)

ただいま企画進行中!! (その①)

◆平成13年度市政研究所講演会◆

本年度の講演会は、複数名のパネラーによるシンポジウム形式で、「IT革命の光と影(豊中バージョン)」についてさまざまな切り口から迫りたいと考えています。時期は来年1月頃、パネラーはまだ未定です。

「市民活動を促進する条例の類型比較」－地域コミュニティ再生のために－

研究所に来て早いもので、3年目に入っています。1年目一歳出削減、2年目一歳入確保と主に財政面を中心とした研究が続きましたが、3年目は地域コミュニティの再生問題を取り上げます。阪神淡路大震災を機に、地域のつながりの大切さがあらためて認識され、平時においても住民主体で地域の諸問題の解決を図るために、地域コミュニティの再生が重要になってきています。そこでは、従来の自治会、婦人会、老人会や防犯協会、PTA、福祉団体に加え、ある特定のテーマに沿って活動する非営利の市民活

動団体(NPO)の関わり、活性化が望まれています。このように、NPOがコミュニティ再生に寄与する点に着目し、最近、自治体がこれらの活動を支援・促進するために制定した条例を調べ比較、類型化し、また、予算的な措置の実態を調査することにより、地域コミュニティ活性化につながるようなNPO政策のあり方、目指すべき方向性、さらには地域への分権のあり方について考えてみようと思います。
(太原)

廃棄物に関する意識・行動調査(2) －ライフスタイルの視点から－

今年度は、昨年度のアンケート調査を補足するためのヒアリングを計画しています。44.7%というアンケート回収率を考えると、回答しなかった住民の意識・行動にも目を向けておくことが重要だと思われるからです。

10月から全市域で粗大ごみ収集申込み制が、モデル地域でプラスチック容器分別収集が始まります。制度を変革する際には、住民になじみやすく、継続できるものかどうかを考慮する必要があります。また、PRの手法も重要です。行政がこれらのことを

踏まえた上で柔軟かつ毅然とした態度を示せば、住民の協力を得ながら円滑な廃棄物行政を進めることができるのではないのでしょうか。

ヒアリング調査では、意識が高くごみ減量・リサイクル行動を実践している住民と、意識が低くごみ減量・リサイクル行動をあまり実践していない住民とに焦点を当て、コミュニティやごみ・環境問題に対する考え方を尋ねることで、豊中市民全体としての傾向や特徴を把握したいと考えています。(村上)

高齢低所得者に対する経済的支援策の現状と今後のあり方について

この前の号で社会保障の網の張り方について研究すると書きましたが、今年度は特にその中で高齢者の低所得層支援策について考えています。5月広報誌で実施された「市政についてのアンケート調査」でも回答者の半数以上は60歳以上の市民で、意見・要望は公共料金や社会保険料など負担の大きさを訴える意見が多く寄せられました。今後、高齢者医療費の自己負担の増加も予想されます。一方で高齢者世帯は全世帯の平均よりも1.5倍の貯蓄があるという統計もあり、必ずしも高齢者＝経済的弱者という

訳ではありません。

具体的な研究内容としては65歳以上の市民に対して、介護保険制度が家計に与えた影響、現在の暮らし向き、世帯の経済状態と生活保護基準との比較、福祉・介護・保健制度の利用意向などをアンケート調査によって掴み、現行制度が機能していないところやその理由を探ろうと今調査票の構成を考えています。学生時代に統計の勉強をちゃんとしておけばよかったなあと思うこの頃です。(弘中)

ただいま企画進行中!! (その②)

◆機関誌『TOYONAKA ビジョン22』第5号◆

「ニュータウン解体新書」(仮題)というテーマで、共同研究に加え、機関誌でもニュータウンを扱います。機関誌では千里にこだわらず、日本や世界各地のニュータウンも含めた、より広い視野からニュータウンを鳥瞰したいと考えています。執筆者については現在交渉中で、発行は今年度末の予定です。ご期待ください。

OSIPP (おーしっぷ) ? お〜湿布?

昨年の4月より、豊中市職員大学院派遣研修制度の第1号として大阪大学大学院国際公共政策研究科 (Osaka School of International Public Policy, OSIPP) の博士前期課程 (修士課程) に通っています。「国際公共政策研究科」とは聞きなれない名前ですが、大学院改革の一環として、1994年に大阪大学に設立された学部を持たない独立研究科です。

OSIPPの目的は、法律・経済に関する学術的かつ実践的知識を用いて、現代国際社会において日本が直面する公共的な問題について、現実感覚を研ぎ澄まし、体系的に分析・評価するとともに、それら

の問題解決に貢献できる世界的な視野を持つ専門的職業人を養成することです。

私はOSIPPで主に経済学の基礎やNPOに関する政策研究の勉強をしています。このコーナーでは、大学院での印象深い講義やできごとをエッセイ風に紹介していきますのでよろしく。(太原)



米テロ事件の余波

10月1日～12日の間、マッセ大阪市町村職員海外研修研修生としてドイツ、イギリスに行き、ドイツでは主に廃棄物行政について、イギリスでは市民・事業者・行政の協働によるグランドワークを用いた都市再生について、現地の関係者にお話をうかがう予定でした。

…ところが、アメリカの同時多発テロ事件で世界情勢の緊張が高まったあおりを受け、研修は「無期限延期」となってしまいました。再開されるのは「ミサイルが上空を飛ぶおそれなくなってから」との

ことです。侃侃諤諤の論争を繰り返しながら視察先の選定、質問事項の設定、現地との交渉までを研修生の手で行い、プレゼントの扇子と置時計まで用意して後は出発するのみ、という状況での「無期限延期」は残念なことです。視察先に対しても迷惑をかけてしまい、無力さを感じます。

海外研修の延期は些細なことですが、今後いろいろな場面で影響が出てくることでしょう。このテロを契機に別の紛争が生じることも考えられます。世界平和を祈るばかりです。(村上)

台風とともに函館へー自治体学会に参加ー

8月23・24日に「21世紀・新たな風を北海道から～みんなで創る地域の豊かさ～」をテーマに函館で開催された自治体学会に参加してきました。台風11号の影響で飛行機の欠航が心配でしたがなんとか前日に函館にたどり着くことができました。

初日は雨混じりの中、五稜郭の近くの函館市芸術ホールで午前文化人類学者の今福竜太教授の「21世紀のパースペクティブ (展望)」という題の記念講演があり、午後からは北海道の企業、NPO、市民グループ、行政などの代表によるパネルディスカッシ

ョンが行なわれました。

二日目は会場を函館市郊外の公立はこだて未来大学に移し、様々なテーマに分かれたセミナーや分科会が開かれました。私は午前中「地域経営の新展開」というセミナー、午後からは「21世紀型高齢者福祉の可能性」という分科会に参加しました。分科会では自分の自主研究のテーマに関連した低所得者の支援の困難な点や社会保障の今後の流れなどについて直接パネラーと意見の交換ができ、有意義な分科会でした。(弘中)

新連載 TOOL BOX (第一回 政策ツール)

「研究所って何をするとところですか？」と聞かれたとき、最近ではここ1、2年の調査研究のことを言うようにしています。例えば、「ごみ問題や千里ニュータウンについてのアンケート調査とか、地域の活性化につながる市民と商業の関わりやIT産業の振興方法などを研究しています」といった具合です。研究所で勤めはじめたこの春ごろは、「豊中市に政策提言をするための中長期的な課題について研究するところですか」と説明していました。そう言いながら相手にはうまく伝わっていないようなので、結局実際にやっていることを紹介することにしたわけです。

「それで、その研究は市政や市民生活に役立っていますか？」と第2球目のストレート、いや、単刀直入な質問が続きます。「これまでの研究はテーマに対する基礎的な調査研究がほとんどでして、これからが役立つ研究に取り組んでいかねばならないと考えています」と話しながら、内心歯切れの悪い答え方をしていることに気付いた時には、もう相手の関心はこの話題から離れています。この2球目をヒットしたいのですが、「役立つ研究」という突っ込みに対して「これまでの研究がどう役立ってきたのかな」と一瞬のためらいがあるため、先の空振りに近い答えになったのにちがいは

ありません。

この研究所の設立趣意書に「…調査研究を行い、科学的な政策ツールと一体化させた先端的な都市政策を提案し…」という表現があります。この言葉と照らし合わせて見た場合、これまでの研究が「政策ツール」としてどの程度の役目を果たしているのか、という振り返りやそもそも役立つツールとは何かといったチェックが必要です。この作業を取組み始めたところですが、そういうスタンスで第2球目のストレートに対すると先程とは別の答え方が浮かんできます。

「役立つ提案をするためには、先ず問題と市政や市民生活の関係や現状をしっかりとキャッチして、次に問題点や課題を明らかにして、そこから解決策を探っていくといったステップが必要です。今はこの一段目と二段目のステップでして…」あまり代わり映えのしない答え方ですが、先程の答え方よりは正確な気がします。

「研究の実情を説明する技量も大切だが、役立つ研究をする技量にも磨きをかけないと空振りに終わるよ」という3球目が、胸元に迫っています。スピードをまじえた変化球です。

(平尾)

平成12(2000)年度の事業報告と収支決算

6月21日の理事会で、平成12(2000)年度の事業報告と収支決算が承認されました。その概要を紹介します。

■事業報告

1. 調査研究事業 (報告書は①～③各200部、④550部作成)

- ①「IT産業振興とよなかモデル—税収の安定確保に向けて」
- ②「地域社会に求められる生活支援システムの展望—豊中都心ゾーンを対象に」
- ③「廃棄物に関する意識・行動調査—ライフスタイルの視点から」
- ④「千里ニュータウン共同研究・千里ニュータウンの暮らしの変化とまちづくりに関する調査」

2. データバンク事業

- ① データバンク通信 No. 11～No. 21 を発行
- ② 図書目録作成 12年度購入図書を目録として作成

3. 広報出版事業

- ①機関誌「TOYONAKA ビジョン22」第4号、テーマは“危機に直面する都市財政再生へのシナリオ”(1,000部発行)
- ②講演会、講座、セミナーの開催
- ③「市政研究所だより」4回発行(各1,000部)
- ④ホームページの運用

4. 人材育成

学会、各種シンポジウム・セミナーへの参加

■平成12(2000)年度収支決算

収入：4,964.4万円 支出：4,189.8万円 収支差引残額：774.6万円

支出の主な内訳

事業費 調査研究費 427.6万円 理事会費 113.2万円 広報出版費 109.7万円 データバンク費 71.7万円
管理費 一般管理費 259.3万円 人件費 3,208.3万円

データバンク通信より

市政研究所で発行している『データバンク通信』では月ごとに、受け入れた雑誌の目次などを紹介しています。内容は以前通り、

- ◆ 新着図書案内 ◆ 新着雑誌案内
- ◆ 各種報告書案内 ◆ 市政研究所発行物案内

などを掲載しています。今年度からは以下の雑誌を新しく購読し始めました。

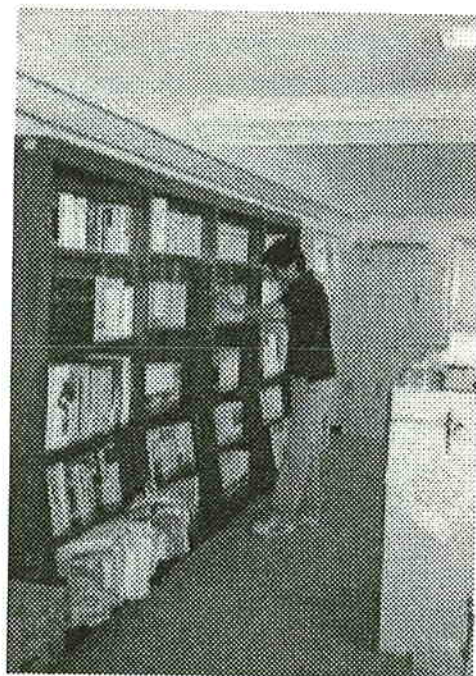
- | | | |
|---------|------------------|----|
| ・教育 | 教育科学研究会編集 | 月刊 |
| ・行政管理研究 | 行政管理研究センター発行 | 季刊 |
| ・社会福祉研究 | (財) 鉄道弘済会発行 | 季刊 |
| ・自治体学研究 | 神奈川県自治総合研究センター発行 | 季刊 |

(※自治体学研究については1997年9月で購読を取り止めていましたが、購読を再開し、1997年12月から現在までの分を取り揃えました。)

市政研究所ではどなたにでも資料の閲覧をして頂けます。お気軽にお越し下さい。

☆ ホームページも充実してきました！

13年度の研究についても、“調査・研究”のページで随時更新していきますので、是非ご覧ください。(洲浜)



事務局から

◆新連載

コラム「ツールボックス」がスタートします。コラムの名称に「喫煙室」とか「局長の部屋」といった候補もありましたが、いずれも書き手との関係で生々しいイメージなので不採用にしました。ツールボックスを直訳すれば道具箱となりますが、研究所として市政や市民生活に役立つ道具を備えていきたいという思いを含めました。地域社会にある問題をとらえる物差しや、解決方策を設計する雲形定規などだれにでも使える認識用具を生み出し、ストックしていければと欲張ってしまいます。コラムではそんな問題意識からでてくるジグザグのあれこれを記していきます。趣意書ではツールと書かれていました。(平尾)

◆秋の味覚狩り

やわらかい土を踏みしめ山を登って行くと、目に入ってくるのは立派な栗林。久しぶりに栗拾いに行ってきました！

見上げれば今にもこぼれ落ちそうな栗が毬(いが)からのぞき、足元を見るとつやつやと光る栗があちこちに落ちています。靴で上手に毬を割って栗を取り出していくと、袋はみるみると重くなっていきました。帰ってから早速食べた栗は甘くて、まさに秋を感じさせる味。食べ方は砂糖を入れて炊いたり、焼き栗、栗ご飯などにしましたが、一番おいしかったのは栗入りの赤飯でした。

山の空気を感じ、おいしい栗を食べ、秋を満喫できた1日でした。(S)

◆食欲の秋がやって来ました

日中はまだまだ暑さが厳しいものの、朝晩はめっきり涼しくなりました。秋の夜長に本を読み、テニスで汗を流しながら、結構秋を満喫しているではないかと感じます。けれども、私にとっての一番はなんとと言っても食欲の秋でしょうか。栗御飯・松茸の土瓶蒸し・サンマの塩焼き、想像しただけでもおあずけの“わんこ”状態です。秋って本当に幸せいっぱい、お腹いっぱい季節です。読書の秋・スポーツの秋・そして食欲の秋。秋の楽しみ方は人さまざまですが、くれぐれも食べ過ぎには注意して下さいね。(M)

